

## “スイスの民族衣装”に関する稀観書と文献

司書二課長 平井 紀子

スイスは小国でありながら数多くの民族服を温存している国である。その理由の一つに地理的な要因があげられる。位置は中央ヨーロッパに属しオーストリア、イタリア、フランスなどの国々と接している。スイスの国家はカントン（Canton, 州）と呼ばれる主権国からなっているが、各州にはその州特有の民族服がある。その民族服の伝統的な服型は、隣接する諸国の影響を受けており、同じスイスの民族服でもドイツ的なもの、フランス風のものなどがあり多様である。もう一つは、地形的な特性である。それは国土の3分の2が山岳地帯で、山々におおわれた谷あいの集落では外の地域との交渉が少なく孤立しており、従って、その地域の文化や習俗、衣服なども流出せず、保存されてきたのである。

スイスの民族服の基本型は、ゆったりしたスカート、ブラウス、ヴェスト、エプロンの4つのアイテムから構成されているが、州により少しずつ型や装飾が異なっている。かぶりものも大きな麦わら帽や黒いレース帽など特徴が見られる。

本館にはスイスの民族服に関する文献は13点ほどあるが、本欄では、貴重書に属する2点を中心に紹介する。

もっとも古いと思われるのは、目録上では1810年のケーニヒ著『新コレクション スイスの服装 ケーニヒの描いた写生と石版画による。1集 ベルン州』F. N. König: Nouvelle collection de costumes suisses. 1 Cahier: Canton de Berne.

〔383.134-K〕である。目録上と、ことわりをつけたのは、この本の標題紙とプレートのだこにも発行年が記されておらず、目録の出版年は書誌を参考に作られている。コラの書誌によると、ケーニ

ヒのこの著作は1802年から1830年頃まで長期間にわたり、さまざまな形式でくり返し版次を重ねているようであり、13種の異なる版が解説されている。初版は1802~1804年に出され、4つ折り判、48ページ、24枚のアクアチント手彩色によるプレート集で伝語の解説が付いていた。この版は「グラン（大）・ケーニヒ」と呼ばれ、シリーズで刊行され、スイスの各州の民族服を描いたものである。8つ折り判に再版されたものは「並版ケーニヒ」、また1811年の12折り判で50枚の図版のものには独・仏の解説がついており、「プチ（小）・ケーニヒ」の名称で普及した。

本館の版は8つ折り判（25cm）で、石版画である。書誌では石版画の版は1830年となっているが本館のものと同一の記述ではなく、同定することはできなかった。



冬の衣装（ベルン州）F. N. König: Nouvelle collection de costumes suisses.

外見の装丁は、いかにも古本を修理したというクロス装の簡易製本で、稀覯本という感じはしない。おそらく日本に入ってからのに製本されたものであろう。標題紙とプレート24枚のほかには序文も図版解説も付いてないが、もともと解説がないものなのか、それとも、あとからプレートだけを集めて製本したものかも定かではない。「1集ベルン州」とあるのは、この本がシリーズで刊行された最初の1巻か、或いは1冊にバインドされたはじめの部分であろうかとも思われるが、それも明らかではない。内容もベルン州の服装だけでなく、周辺の地方が加わっている。24枚のプレートをキャプションで分けると、フリブール6枚、ベルン5枚、ツールハッヒ2枚、アペンツェル1枚、ルツェルン1枚、シャフハウゼン1枚、ヴァード1枚で、残りは地名ではなく、祝祭日の服装、農婦、牛乳屋、巡礼者などで全体に市民服が描かれている。図版は彩色がほどこされており、スイスの特色ある民族服が繊細に描かれているが、残念なことにコンディションがよくなく、紙のシミが印象をだいぶそこねている。

次にもう一点は、エリエス著の『スイス—服装、



(Dame.

( Canton de Aargau. )

婦人 (フリブール州) Eyriès, J. B. E.: La Suisse, ou costumes, mœurs et usages des Suisses.

風俗、習慣』Eyriès, J. B. E.: La Suisse, ou costumes, mœurs et usages des Suisses (383.13-E) である。この本も出版年は記されていないが、書誌によると1825年の刊行である。

本書はスイスの各州の服装を描いた63枚の図版から構成され、図版にはその地方の歴史や風俗、衣服についてエリエスによる伝説の解説がなされている。ここに挿入されている図版は G. Lory と W. Moritz が描いた *Costume suisses* (1824年) の図版が用いられているが、本館では幸いにもこの *Costume suisses* の復刻版である *Schweizer Trachten*. 1974 (383.134-S) を所載している。であるからエリエス版にはこの復刻版と同じ図版がかなり見られる。こちらの復刻版はもと版の55枚のオリジナル水彩画からの完全複製版でバインドされておらず、1枚1枚のプレート状で帙(ちつ)に入っている。図版は繊細で彩色が美しく、エプロンや花飾りの帽子などスイスのかれんな民族服が、みごとに再現されている。

エリエスはこのほか本書と同様な「服装、風俗、習慣」の書名をもつデンマーク、ロシア、トルコなどの国別の服装書をシリーズで著している。本館には『各国民の服装、風俗、慣習』*Costume mœurs et usages de tous les peuples; suite des gravures coloriées.... 1821* (383.1-E) を所載している。

先にあげたケーニヒとこのエリエスの本は、スイスの民族服の原典ともいわれ、後世の文献にも引用されている。

そのほか、図版が素晴らしいのは、*Die Schweizer Trachten; vom XVII.-XIX. Jahrhundert nach Originalien*. 1896 (383.134-H)。写真版ではあるが、56cmもある大型判で36枚のプレート集。

*Die Volkstrachten der Schweiz*. 1922-1932 (383.134-H-1~5) は5冊本で、州ごとにまとめられ解説が詳細である。

その他のスイス民族服の図書については『民族衣装欧文文献目録』の49ページを参照されたい。